

## ⑩ 倉吉市玉川の取水と映画ロケ地

大西 教文

倉吉の町を東西に流れる玉川周辺は、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定され、保存地区中央を流れる玉川沿いには、白壁の土蔵群があり、江戸時代から明治・大正時代にかけて商工業都市として栄えた倉吉の街並みの歴史的景観をよく伝えています。※1) また、白壁土蔵群の景観は、映画やアニメにも利用される等、鳥取県の有名な観光地の一つになっています。ロケの参考となった作品が気になる方は、インターネットの検索サイトで、「倉吉、ロケ地」等のキーワードで調べてみてはいかがでしょうか。

玉川を散策するとレトロな街並みが楽しめることとなりますが、今回は、その玉川の石積構造に注目してみました。本書は、元鳥取短期大学教授の倉恒俊一先生の著書※10)、※11) をもとに倉恒先生と現地確認を行い作成しました。

天神川の歴史によると、天文13年(1544年)の洪水により、現在の倉吉市田内周辺の見日千軒と呼ばれた城下町の人々が難を逃れて移り住んだのが現在の倉吉の地(玉川周辺)であると言われています。※2)

玉川は、江戸時代の地図を確認すると打吹山を源流として、小鴨川へ合流する流れとなっていることが確認されます。(図-1) 玉川が整備された時期は確認できていませんが、天神川、小鴨川周辺の記録に残っている最古の土木工事は倉吉市の「長門土手」(図-2)と玉川の改修工事であり、「長門土手」は元和年間(1615年～1623年)に伊木長門守忠貞によって作られたものとされています。※3) 玉川は生活用水として江戸時代初期に整備され、現在の玉川の状態になったのは明治時代ごろと考えられるとのことです※10)。玉川沿いには所々川に降りる「ハトバ(洗い場)」の跡が確認できます。※11) (写真-1)

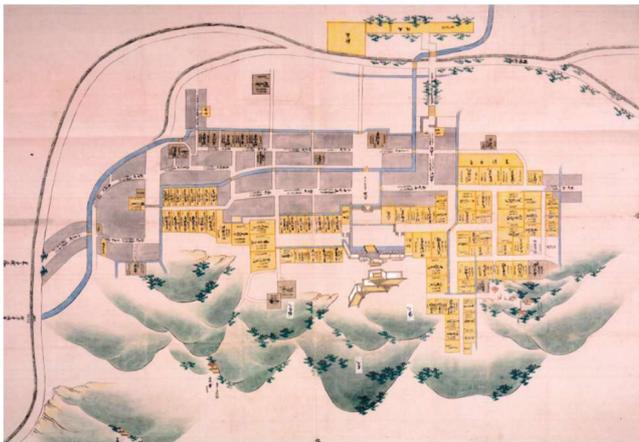


図-1 伯耆国倉吉侍屋敷町屋之絵図 寛延年間(1748～1750)  
※北を上に表示するため、絵図の上下を逆にしてあります。



図-2 国土交通省 HP 水管理・国土保全 日本の川より



図-3 国土地理院 電子国土 web をもとに作成



写真-1 玉川に残るハトバと石橋 著者撮影

玉川の両岸は石積であり、河床は土砂となっています。生活用水として利用されていたためか、河床には陶磁器の破片が確認できます。石積は、野面積構造のものや石を切り出して整えられたもの等複数の構造が確認

できます。川幅については、西町を境に川幅が変わります。上流側の川幅は1.2から1.8m程度で下流側は約3.0mから3.8mと急に幅が広がっていることも興味あるところ※10)です。深さは約1.5mであることが確認できます。

野面積部は40cmから60cm程度の河川玉石を加工せずそのまま積み上げた構造となっています。(写真-2) また、四角い自然石を野面積とした構造も確認できます。(写真-3)

東仲町の玉川沿いの土蔵基礎部は「打ち込みはぎ(材の出っ張りを取り接合面を合わす)」あるいは「切込みはぎ」として護岸を兼ねる形式をとっている※10)ことが確認できます。土蔵部の石材は幅1.0m程度、高さ0.5m~0.7mのものもあります。(写真-4) ※10) また、土蔵を支えている護岸から50cm程度離して木杭が打ち込まれていて水流によって護岸の底が流されないよう工夫されている※10)ことが確認できますが、倉恒先生の調査では、この木杭は、近年(昭和時代)整備されたものと考えられるとのことです。(写真-4、写真-5)

江戸初期に整備された玉川護岸は両側は野面構造であったが、その後の倉吉の発展により、土蔵の整備に合わせて護岸は整然とした打ち込みはぎ等の石積構造になったものと考えられるとのことです。※10)

また、玉川のもう一つの特徴が川にかかる石橋です。石橋は安山岩できており、長さが2.9mから3.5m程度、厚みは、15cmから18cm、およそ1トン前後の重さがあります。※10) また、1枚の岩から形成されています。(写真-4、写真-5)

玉川の石積や石橋の施工方法、石積の詳細構造は、確認ができていないところであり、玉川周辺を散策の際には、当時どのように石材を運んで玉川を整備したのか等当時の技術者の苦勞をしのんでみてはいかがでしょうか。

アクセスは、JR倉吉駅からバス(市内線ほか)で白壁土蔵群前で下車する方法や、周辺駐車場を利用する自家用車でのアクセスも可能です。(詳しいアクセスはインターネットを確認ください。)



写真-2 野面積 著者撮影



写真-3 野面積(四角自然石) 著者撮影



写真-4 土蔵部付近の石積 著者撮影  
幅約1.0m程度、高さ0.5m~0.7m程度あり



写真-5 土蔵部付近の石積 著者撮影  
護岸前面に木杭が設置されています

<参考文献>・

1) 鳥取県 地域づくり推進部 文化財局 文化財課 HP 文章引用

([http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/bunkazai\\_web\\_view/F5355F495FF6B24549257AB000213C2D?OpenDocument](http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/bunkazai_web_view/F5355F495FF6B24549257AB000213C2D?OpenDocument))

2) 国土交通省水管理国土保全局HP 天神川の歴史 文章・図引用

([https://www.mlit.go.jp/river/toukei\\_chousa/kasen/jiten/nihon\\_kawa/0711\\_tenjin/0711\\_tenjin\\_01.html](https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/nihon_kawa/0711_tenjin/0711_tenjin_01.html))

3) 国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所 HP : 天神川水系河川整備計画

(<https://www.cgr.mlit.go.jp/kurayoshi/tkasen/plan/seibikeikaku.pdf>)

10) 鳥取短期大学倉恒俊一倉吉市伝統的建造物群保存地区「倉吉市打吹玉川」地区に流れる玉川の調査 2019年3月

11) 成徳地区玉川を美しくする会 会長倉恒俊一「玉川の歴史を考える 令和3年12月